

【学校教育目標】

『自ら考え、主体的に自己実現し、自他の存在を認め合える生徒の育成』

【スローガン】

『いじめを許さない、笑顔・歌声・ありがとうがあふれる学校』

目指す生徒像

互いを尊重し、高め合うことのできる生徒

○自ら知識を求め学習に励む生徒

- ・自主的、計画的に学習する生徒
- ・仲間と共に考えを深める生徒
- ・目標達成に向けて精進のできる生徒
- ・良書を読み、様々な見方考え方を身につける生徒

○自分自身と仲間を大事にする生徒

- ・正義の心を重んじ、正しく行動する生徒
- ・礼節を尊び、相手の思いを押し量り行動する生徒
- ・思いやりがあり、挨拶・モラルを大切にする生徒

○心身が健康でたくましい生徒

- ・きちんとした毎日の生活を大切にする生徒
- ・困難に負けず、勇気をもって乗り越える生徒
- ・自他の生命の尊さを理解し、積極的に心身を鍛える生徒

目指す学校像

個が輝き、人がつながる学校

- 美しく整い、学習の場としてふさわしい学校
- 笑顔輝き、あいさつや歌声の響く活力のある学校
- 生徒と教職員が信頼し合える学校
- 家庭・地域と学校が仲良く結び合い、共に生徒を育てる学校

目指す教師像

力量向上・生徒理解に努める教師

- 個々の生徒を理解し、大事にする教師
- 研究と修養に努め自らを磨き、学ぶ楽しさを伝えられる教師
- 生徒の変化に気づき、協働して支援のできる教師
- 校務の遂行にあたり、新しいことに挑戦する教師

学校経営の重点と具体的方針

(1) 学年・学級経営の充実

- ・優しさと厳しさを兼備し、深い愛情をもって生徒の指導・支援にあたる。
- ・一人一人の生徒理解と、信頼関係の構築に努める。
- ・集団活動を通して、協力する態度や挑戦する力、仲間理解、自己理解の力の育成に努める。
- ・朝の会、帰りの会を充実させ、生徒の士気を高める。

(2) わかる授業、生徒が学び合う授業の創造

- ・授業のねらいを重点化し、教師が教えること、生徒に考えさせること、生徒が調べたり話し合ったりして解決することを明確にした授業を行う。
- ・子どもの発言やキーワードを拾い、思考の過程がわかる構造的な板書を作成する。
- ・生徒の言語活動を重視し、説明することやまとめる活動の充実を図る。
- ・生徒が関わり合い学び合う活動や問題解決的な学習で学ぶ楽しさや達成感を味わわせ、学習意欲を引き出す。
- ・学習課題や学習のねらいを明確にして、指導と評価の

一体化を図る。

- ・朝読書を工夫し、読書の楽しさや言葉のもつ力に気づかせ、本に親しむ生徒を育てる。
- ・総合的な学習の時間では、教科統合の横断的な力を結集して取り組む課題解決的な学習に努める。
- ・家庭学習の指導に力を入れ、生徒の学習習慣の確立を図る。
- ・全職員が自身の課題を明確にし、年1回以上の授業研究を行う。
- ・少人数指導や習熟度別授業を計画的に行い、学力の向上に努める。
- ・単元の終わりに授業評価を実施し、常に授業力の向上と授業改善に努める。

(3) 積極的生徒指導（発達支援的生徒支援）の一層の推進

- ・生徒の成長や頑張りを見逃さずに認め、教員間の情報共有に努める。
- ・生徒一人一人の特性を理解し、適切に励ます指導を推進する。

- ・ 道徳教育の充実を図り、様々な場面を捉え生徒個々の道徳性を培う。
- ・ 生徒会活動や部活動等を通して、主体性を促すとともに、責任感や連帯感の涵養を図る。
- ・ 生徒理解に努め、様々な活動を通して、生徒と生徒、生徒と教職員の好ましい人間関係を構築する。
- ・ キャリア教育を推進し、自己実現していくために必要な意欲や態度を育成する。
- ・ 給食指導や保健指導等を通し、生徒が健康の大切さを実感し、心身の健康を管理する態度を育めるよう食育を推進する。
- ・ 保健体育の中に体力向上の運動を位置づけ、達成感を味わう体験をさせることで、自信を積み重ねる指導を推進する。

(4)安全で安心して生活ができる環境づくり

- ・ 教育相談、いじめ、セクハラ、体罰の調査を定期的に行い、相談週間を充実させるとともにSCと連携し、生徒の心身の健やかな発達を支える。
- ・ 特別支援教育の体制をつくり、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた個別指導の推進に努める。
- ・ 防災訓練などの安全指導を計画的に行い、自助、共助の意識を身につけさせる。
- ・ 全ての教職員がAEDとエピペンの使用、感染症対策をできるよう計画的に研修を行う。
- ・ 施設や学校備品の点検と校内巡回を計画的に行い、学校生活の安全を確保する。

(6)保護者や地域との積極的な連携による、信頼される学校づくり

- ・ 学校だよりや学年だより等で、学校の様子や生徒の頑張り、課題を定期的に伝える。
- ・ 関係者評価や外部評価を実施し、学校運営の状況について、家庭や地域に公表する。
- ・ 授業参観や行事を通して、学校公開を計画的に行う。
- ・ 学校評議員会やミニ集会を開催し、地域の皆様の意見聴取に努め、学校運営に生かす。

(6)社会規範（挨拶・言葉遣い・交通ルール等）を大切にし、地域の人に愛される生徒の育成。

- ・ 共通理解と共通指導に基づく指導体制の推進を図る。
- ・ 相手の存在を認める温かい挨拶ができる生徒を育てる。
- ・ 教師が模範となり、適切な（正しく、丁寧で、温かい）言葉をつかうことで、生徒が安心して会話ができる言語環境づくりを推進する。
- ・ 道徳の授業を重視し、学校生活を通して道徳的実践力の育成を推進する。

(7)校務処理の合理的・計画的運営

- ・ 組織の一員として、報告・連絡・相談を密にして校務遂行に確実に努める。
- ・ 教職員の目標管理を遂行し、組織の活性化を図る。
- ・ 情報管理を適切に行い、個人情報保護を徹底する。
- ・ 文書管理を確実に行う。
- ・ 公務員としての自覚をもち、責任のある行動をする。

教育活動計画

1 教育課程

(1) 編成方針

- ①学習指導要領の完全実施を踏まえ、生徒及び家庭や地域の実態に基づく教育課程を編成する。
- ②学校教育目標である『自ら考え、主体的に自己表現し、自他の存在を認め合える生徒の育成』を具現化するための教育課程を編成する。
- ③基礎・基本の定着を図り、確かな学力を身につけさせるため、工夫された教育課程を編成する。

☆学習指導要領の年間標準時数

学年	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	英語	道徳	特別活動	総合	計
1年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	35	50	1015
2年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	35	70	1015
3年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	35	70	1015

2 研究・研修計画

(1) 研究主題 確かな学力の向上を目指した授業研究

(2) 研究目標

- ①各教科において『『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』（「見出す」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」）を活用しながら、生徒がじっくりと考える場面と教師が教えたりまとめたりする場面を明確に位置付ける。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業展開を考え、その成果を検証する。
- ②各教科ごとに「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という視点から、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」に対する評価の研修を進め、「指導と評価の一体化」を図る。